

# 琉球大学学術リポジトリ

時間芸術を鑑賞するための方法論：  
臨場感を味わいながら構造から学ぶ音楽美鑑賞法の  
提案：旋律記憶指導法と教材選択の視点

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部音楽科 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: シャイヤステ, 榮子, Shayesteh, Yoko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/33206">http://hdl.handle.net/20.500.12000/33206</a>

# 時間芸術を鑑賞するための方法論

— 臨場感を味わいながら構造から学ぶ音楽美鑑賞法の提案：  
旋律記憶指導法と教材選択の視点 —

琉球大学教育学部音楽教育教室

シャイヤステ 榮子

音楽は時間芸術である。音楽は絵画のように空間に留まる事なく未来へ向かって流れて行く。そして、今一瞬流れた音は消え去り、二度と戻っては来ない。このような特性を持つ音楽を鑑賞するにはどれだけ一瞬に流れ去った音楽を記憶しているかが重要な基礎力となるのである。

音楽は複雑に絡み合い時間と共に変化していく。旋律、リズム、ダイナミックス、ハーモニー、テクスチャー、そしてそれらの要素がどのような形式の箱に収められているのかを読み取る能力が求められる。拍感を感じながら旋律を記憶し、主題を記憶しながら主題の行き着く場所を探り、主題の次にブリッジを渡って次の新しい主題へとバトンタッチするのか、或いは、主題が何度も何度もしかし、形を徐々に変えながら進行して行く様を聴けるように訓練していくことが鑑賞指導では大切なのである。本論文は、ハンスリックの形式主義理論に基づく音楽美の視点に立ち、その音楽美を体感するための基礎力を学校教育の音楽科の授業で習得させる為の指導法をその鑑賞教材選択の視点とともに提案するものである。

## 旋律記憶：第一段階

先ず、短い旋律から徐々に長い旋律を記憶できるような訓練が必要である。その為には、短い旋律が何度も何度も繰り返し出てくる小品を教材として選択する事が大切となる。

小学校の低学年では、短い旋律が何度も出て来るたびに少しずつ形を変えていくと、それは同じ旋律ではなく、全く違った旋律として児童は聴取する。そこで、同型の旋律を何度も繰り返す「ロンド形式」は教材として最適である。

ハンガリーの作曲家ゾルタン・コダーイの歌劇『ハーリ・ヤーノシュ』の中の小曲である。コダーイはこの劇音楽から6曲を抜粋し演奏会用の組曲とした。その組曲の第2曲目が「ウィーンの音楽時計」である。4/4拍子のAllegrettoの速さで演奏される変ホ長調の小品である。この作品は、真に上記の条件に叶う作品である。

ロンド形式で書かれており、ABACADAであり、4回繰り返されるAは各々がほぼ同質で表れ変化する事はほとんどない。そして、Aは4小節の短い主題で成っており音楽鑑賞を学び始めたばかりの小学校低学年の児童の旋律記憶に残ることが可能である。この曲がロンド形式であるが故に、Aのみならず、BもCもDも同様に4小節で創られており、演奏時間は全体で2

分19秒程度である。

ゼンマイ仕掛けの時計様々な様子がBやCやDで表現されており、Aとは大きく異なる為、年少の初心者にも曲の変化を楽しみながら、音楽時計の様子をあたかもウィーンの広場でこのゼンマイ仕掛けのオルゴール時計を臨場感を感じながら鑑賞することが可能となるのである。また、何度も出現するAの旋律は児童が口ずさみながら鑑賞できる。そのAの旋律を記憶する事で、Aが終わり、次のB,C、そしてDへと移動する際にその旋律の違いに気づき、自分自身の旋律記憶を確認する事になるのである。この様な訓練を楽しみながら継続する事で、より長い主題の曲を聞き分ける能力を付けていくのである。「ウィーンの時計」のようなロンド形式の鑑賞曲には、

- ① ブリテン「Waltz from Matinee Musicale」
- ② エルガー「Fairies and Giants from Wand of Youth Suite No.1」
- ③ シューマン「Frightening」
- ④ エドワード・ジュリー「Bell Rondo」

等が挙げられる。

さて、ロンド形式の鑑賞の前に、AB形式(二部形式)やABA形式(三部形式)の小品を聴くことも大切であるが、この場合も、コダーイの小品と同様に、AとBが明らかに異なる曲想であること、そして、ABAはAが再び出現する時には同じ曲(主題)である事が重要な条件となる。低学年用の2部形式(AB形式)としては、その様な二部形式や三部形式の鑑賞曲には、

- ① グリーグ「Norwegian Dance」
- ② ベルリオーズ「Ballet of the Sylphs from the Damnation of Faust」
- ③ ヴァージル・トンプソン「Walking Song from Acadian Songs and Dances」
- ④ チャイコフスキー「Dance of the Little Swans from Swan Lake」
- ⑤        "                「Dance of the Reed Pipes from Nutcracker Suite」
- ⑥ ショスタコーヴィチ「Pizzicato Polka from Ballet Suite No.1」
- ⑦ ムソルグスキー「Promenade from Pictures at an Exhibition」
- ⑧ エドワード・ジャーマン「Morris Dance from Henry VIII Suite」
- ⑨ モーツァルト「No.8 from The Little Nothings」
- ⑩ カバレフスキー「Waltz from The Comedians」
- ⑪ コープランド「Circus Music from The Red Pony」

等が例として挙げられる。二部形式や三部形式の曲は多く有り、上記の11曲はほんの一部に過ぎない。これらの小品は、音楽鑑賞の旋律記憶の訓練を始めたばかりの小学校1年生に最適な小品であるが、児童が、旋律を口ずさんだり、体を動かしたりしながら鑑賞できる臨場感豊かな曲である。

### 旋律記憶：第二段階

旋律記憶が育ち、主題が同じか違うのかが分かるようになると、もう少し長めの作品を鑑賞する事が可能となる。しかし、主題（A）は、何度現れても同じでなければいけない。それが条件である。その条件を満たす楽曲は「主題と変奏」という形式で書かれた曲である。

ルシアン・カイリエ作曲の「いいやつみつけた」Pop! Goes the Weasel は、いたずらっこのイタチの様子を主題と変奏の形式で表現した曲である。主題がイタチを表現しており、そのイタチが変奏を通して様々な悪戯をしていく様子を音楽で表現しているのである。音楽鑑賞初心者にも、いたずらっ子のイタチが次々と曲が変わるごとに、今度は何のいたずらをしているのだろうかと興味津々に、しかも小学校低学年の児童が自分に重ね合わせながら鑑賞する事ができるのである。児童自身がイタチとなり音楽に合わせてながら身体表現をしながら鑑賞することが可能である。

低学年の児童には抽象的な思考は難しく、より具象的な物に置き換えて基礎を学ぶ事が大切である。第一段階で扱った鑑賞教材も、オペラや組曲等の物語性の強い音楽からの選択となっているのはその理由からである。これらの短い主題には、拍子やリズム等の低学年で学ぶべき音楽の要素が多く含まれているが、主題を記憶して口ずさみ模倣をして体感する事が今後の長い主題を聞き分ける事ができる音楽能力へと繋がっていくのである。

小学校高学年になると、抽象的な器楽曲の鑑賞も可能となる。しかし、旋律記憶はまだまだ発達途上段階なので、主題が出現毎に大きく変化していると聴取が難しい。主題は同じ旋律で登場してくるが、様々な楽器がその主題を担当している。あたかも楽器が主題をリレーするように主題と変奏が展開されていく。しかも、楽器がピアノを中心とする弦楽器で演奏される。ヴァイオリン、ビオラ、チェロ、そしてコントラバスで構成されるシューベルト作曲「ピアノ五重奏 鱒」である。

主題と変奏の形式に作曲されているのは第四楽章である。主題はピアノで演奏される。高学年の児童でもピアノの音色は認知されているので、ピアノで演奏される主題は容易に口ずさみ記憶する事ができる。変奏は全部で6変奏あるが、主題を担当している弦楽器が代わっても主題は明らかに同旋律であり、伴奏を担当している楽器を聞き分ける事で主旋律を担当している楽器を解き明かす事も可能である。

### 旋律記憶：第三段階

旋律が同じか異なるのかが聞き分ける事が出来るようになると、少しずつ長い楽曲を鑑賞する事が可能になる。第二段階での主題と変奏も曲も第一段階の二部形式や三部形式、そしてロンド形式の曲よりも少し長い選曲になっていた。

この第三段階では、第一段階のABA(二部形式)を長くした楽曲の鑑賞が可能になってくる。ソナタアレグロ形式の曲である。ベートーヴェンの交響曲第五番の第一楽章はあまりにも有名

なシンフォニーである。主題の4個の連続する旋律は誰の耳にでも判別可能な短くしかも何度も何度も繰り返し登場する。

ソナタアレグロ形式は、古典派時代に完成されたソナタ様式の第一楽章で使われる。三部形式のABAの形を取っている。特にこのベートーヴェンの第五番は、Aの呈示部とBを挟んで現れるAの再現部は最後のコーダを除いてはほとんど同じである。従って、小学校高学年の児童も第一段階からの旋律記憶の指導を段階的に終えたならば、この交響曲の聴取・鑑賞が可能である。Bの展開部はAを変奏した内容であり、再現部Bが再来するとあの呈示で記憶した懐かしい主題が聞こえてくるのである。下記のようなベートーヴェンの「交響曲第五番第一楽章」の鑑賞アウトラインを作成してみた。

この楽章は約7分で演奏される。A(呈示部)には、第一主題と第二主題が対象的な旋律で出現する。その旋律を楽譜で呈示し、それを演奏している楽器も提示した。次に何が起こるかを示唆する文章も加えた。そして、そこにある説明文を読んでいく速さで音楽が進行していく。立ち止まる事はない。真に、音楽を聴きながら、そこで何が起きているのかを目で追いながら、「運命」の臨場感を五感で感じながら鑑賞に集中できる鑑賞案内である。

## 鑑賞のアウトライン

交響曲第5番 ハ短調、Op.67(1803年) ルードウィヒ ベートーヴェン

第一楽章 Allegro con brio

ソナタアレグロ形式、2/4拍子、ハ短調

2フルート、2オーボエ、2クラリネット、2フレンチホルン、2トランペット、第1バイオリン、第2バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス

(時間 6 1/2分)

### 提示部

第一主題

1 a. 基本モチーフ、ff、一音低く繰り返される、弦のユニゾン



b. 突然 *p* になる、弦が基本モチーフを急速に展開する、短調、力強いコード

ブリッジ

2 a. 基本モチーフ、*ff*、オーケストラのユニゾン

b. 突然 *p* になる、弦が基本モチーフを急速に展開する、クレシェンド、*ff*、力強いコード

第二主題

3 a. フレンチホルン独奏、*ff*、ホルン呼びかけモチーフ

b. バイオリン、*p*、叙情的な長調のメロディー、基本モチーフが低音弦楽器で演奏される

4 a. 勝利のメロディーに向けてクレシェンド、*ff*、バイオリン

- b. 木管楽器のホルン、基本モチーフが下降へせき立てる、基本リズムのカデンツ、小休止  
(提示部は2回繰り返される)

**展開部**

- 1 a. 基本モチーフ、*ff*、弦楽器  
 b. 突然 *p*、弦と木管、基本モチーフの急速な展開、モチーフが急速に繰り返されるコード、*ff*に  
 向け上り詰める  
 2 a. バイオリン、*ff*、ホルン呼びかけモチーフ、低音の弦、下降線

violins  
*ff* *sf* *sf*  
 cello and basses

- b. 高い木管楽器、*ff*、低い弦の会話、*ff*、ホルン呼びかけモチーフが短い断片の中に散りばめられて  
 いる、*pp*に向けてデクレッシェンド

winds  
 winds winds winds  
 strings strings strings  
 winds  
 strings

- c. 突然 *ff*、ホルン呼びかけリズム
- d. 突然 *pp*、木管楽器が弦に反応する
- e. 突然 *ff*、繰り返されるモチーフ

## 再現部

### 第一主題

- 1 a. 基本モチーフのクライマックスを作る、オーケストラ総動員、*ff* 一音低く繰り返される
- b. 突然の *p*、弦が急速にモチーフを展開する、短調、コードが
- c. オーボエの独奏に導く

### ブリッジ

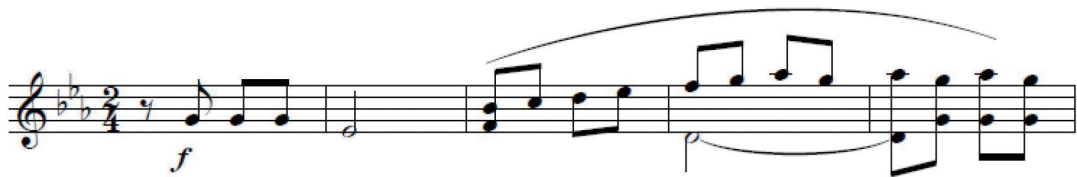
- 2 基本モチーフが急速に弦によって展開される、*ff* に向けクレシェンド、オーケストラ総動員

### 第二主題

- 3 a. ホルン呼びかけメロディー、バスのソロ、*ff* 叙情的長調の旋律、*p*、バイオリンとフルートが交互に現れる、基本モチーフがトランペットによって伴奏される、*p*
- 4 a. 勝利のメロディーに向けてクレシェンド、*ff*、バイオリン
- b. 木管、基本モチーフが加工するように追い立てる、カデンツが基本リズムで現れる

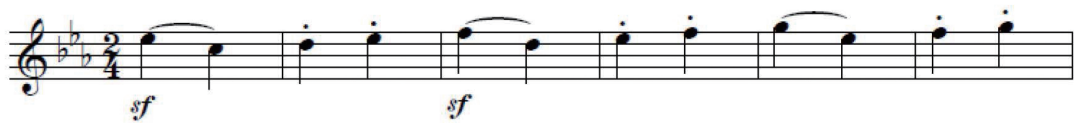
## 終止 (コーダ)

- 1 a. 急速なコードの繰り返し、*ff*
- b. ホルンの呼びかけモチーフ、低音の弦、*f*、高音のバイオリン、短調



下降するバイオリンのメロディー、スタカート、それらが

- 2 a. 新しい 元の上昇する主題に引き継がれる、レガートとスタカート





b. 高音の木管、ff、低音の元と力強く応答している。

3 a. 基本モチーフへ引き継がれる、ff、一音低く繰り返される、オーケストラ総動員

b. 突然 p、基本モチーフが急速に弦と木管によって展開される

c. 突然 ff、力強い最終コード

本論では音楽鑑賞の基礎力としての旋律記憶力指導の方法論を紹介したが、一番大切なことは、指導する教員自身が教材を良く吟味し児童を困惑させない教材選択をする事である。

### 参考資料

ハンスリック、エドワード「音楽美学」渡辺護訳、岩波書店、1960。

シャイヤステ榮子「音楽の要素や仕組みに視点をおいた鑑賞教材の開発—小学校の教材を中心に—」『琉球大学教育学部教育実践総合センター紀要、第20号』2013年3月、pp.99-126。